

深谷市内で生産されている品目の一例
(右上：ペゴニア、右下：コキア、
左上：シャコバサボテン、左下：ピンカ)

花だん苗物・鉢物生産に おける大里農林振興セン ターの活動

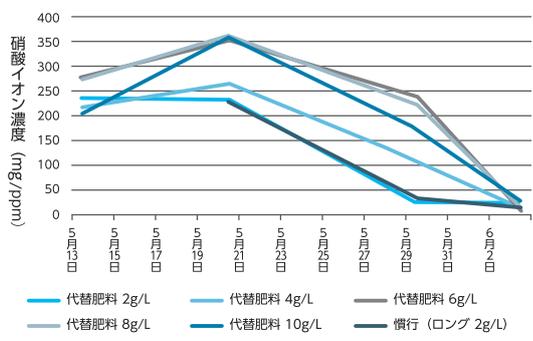
深谷市や寄居町では切り花に加えて、花だん苗・鉢物生産(以下鉢物生産)も盛んです。都市近郊かつ都心までの交通網に恵まれ、大消費地への輸送に有利な点を活かし、様々な品目を組み合わせた通年出荷が行われています。『みどりの風』令和5年度1月号では、切り花にフォーカスして活動紹介をしました。今回は、鉢物生産における大里農林振興センターの活動を紹介します。

① 代替肥料の効果の検討

鉢物生産では「マグアンプ」や「ロング」などの緩効性肥料を用いることが多いですが、近年、値上がりにより、生産コストの増大に拍車がかかっています。そこで、大里農林振興センターでは、生産者と共に様々な品目での代替肥料の利用方法を検討しています。これまで長年行ってきた普段の肥培管理からの変更は、リスクを伴う難しい決断ですが、コスト削減には有効な手段です。

一週間に一度、鉢下から流れ出る浸出水の硝酸態窒素濃度を計測して、鉢土中の残存肥料分の推定を行っています。初めて使う肥料

価格が1/4以下の代替肥料による比較試験の様子



では、追肥のタイミングや適切な施用量が分かりにくいことがありますが、浸出水の硝酸態窒素を継続して計測することで、適切な追肥タイミングや施用量の判断材料になります。

定植から出荷までのポット内の窒素量の推移 (コキア)



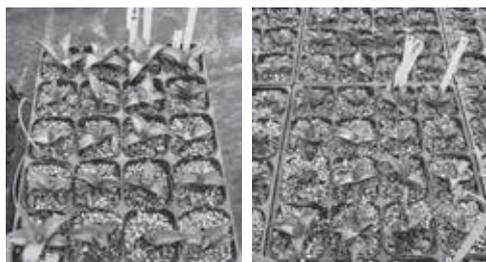
左から慣行、10g、8g、6g、4g、2g
慣行肥料はIB4粒/pot追肥あり、代替肥料では追肥なしで栽培。
代替肥料を6g/L以上入れることで追肥作業を行う慣行肥料と同等の品質を得ることが出来た。
代替肥料8、10g/Lでは追肥作業が不要なため肥料費や人件費の合計は1/3以下になった。

② LEDを使用した 観葉植物の高品質化

最近人気な観葉植物の中でも「アガベ」はポピュラーな商品です。メキシコの高山乾燥地帯原産の植物で、強い光線を好みます。また、同じ品種でも株姿による価格差が大きい商品です。株姿を理想的なものにするには、十分な光を当てるのが重要です。しかし、少量多品目を生産している栽培ハウスには、暑い時期に遮光が必要。栽培ハウス内では十分な光量を確保

保することが困難になっています。そこで、ハウス内での光量確保を目的として、LED補光を用いて栽培に取り組みました。その結果、株姿の高品質化だけでなく、展葉速度が速くなり、慣行栽培と比較して早期出荷が可能になりました。また、従来は商品の高品質化のために、晴天時には早朝に栽培ハウスの外に出し、夕方になってしまう作業を行っていましたが、補光により移動作業が不要になり、天候に係らず光を供給することが出来るようになりました。

アガベの品質評価について



左：慣行区 右：LED照射区

- ・葉が短く厚みがあり、葉伸長に占める鋸歯の幅が広いほど価値が高い。
- ・株全体の開きが小さく、まとまった株姿をしているものが好まれる。

